

平成24年度事務事業評価シート（23年度実施事業分）

事業番号	08 04 08	中期総合計画主要施策番号	2-03	担当課	部・課	農政部園芸畜産課			
事業名	地域畜産活性化支援事業				内 線	3179			
					E-mail	enchiku@pref.nagano.lg.jp			
実施期間	H23	～	根拠法令等	地域畜産活性化支援事業実施要領					
実施方法	(社)長野県畜産会へ委託					国庫・ 県単	国庫補助事業		

事業の概要等	目的(必要性)	畜産農家の高齢化による生産力の低下や景気低迷による畜産物の消費低迷が懸念される中、地域における畜産の活性化と畜産生産基盤の維持を図るため、実需者のニーズに沿った家畜生産へ農家を誘導するとともに、遊休畜舎の有効活用や堆肥の流通促進を推進する。
	対象	畜産農家
	目指すべき姿	1 生産者が、実需者側のニーズを理解し、それに沿った生産を行う。 2 遊休畜舎が有効に活用され、生産基盤が維持される 3 耕畜連携によるたい肥利用の促進が図られる
	事業内容	・需要に対応した畜産生産を理解するための研修会等の開催 ・遊休畜舎の有効活用を図るため、遊休畜舎の発生状況(見込みも含む)のデータベース化とコーディネート ・たい肥生産者リストの整備、耕種農家のたい肥利用調査 ・畜産農家の実態調査

事業コスト	区分	単位	22年度	23年度	24年度(当初)	23年度事業費の主な内訳
	最終予算額 (A)	千円	-	10,420	7,720	委託料10,200千円
	決算額 (B)	千円	-	10,420		
	B(H24はA)のうち一般財源	千円	-	220	220	
	概算人件費	人	-	0.50	0.50	
	概算事業費 (B(H24はA) + C)	千円	-	14,549	11,849	
事業実績	成果指標・活動指標内容	単位	22年度	23年度	24年度(見込)	左記以外のH23年度実績
	実需者からの提案に基づく生産支援(活)	課題	-	4	5	・米豚の生産、牛のうまみ成分の一つであるオレイン酸値向上、豚の生産性向上のための生産体制を支援 ・畜産農家199戸の飼養実態を調査。
	需要に対応した生産技術研修会(活)	回	-	2	4	・遊休畜舎に関する情報収集を56戸から収集。 ・堆肥生産農家の生産利用及び耕種農家の堆肥利用に関する調査を179戸から実施。
	<効率指標(単位当たりコスト等)> 研修会、生産支援課題当たりのコスト	千円/課題		2,424	1,316	(効率指標 算出式) 概算事業費 / (研修会開催数 + 生産支援課題数)

事業の成果	事業の目標(H23)	事業成果・評価	評価区分
	・需要に対応した畜産生産体制の推進 ・遊休畜舎のデータベース化と就農希望者とのコーディネート ・たい肥生産者リストの整備	・実需者からの提案に基づく農家の生産体制を支援し、米を給与した豚の商品化等を推進した。 ・遊休畜舎に関する情報をデータベース化し、ホームページへ公開した。 ・堆肥生産者に関するリストを作成し、関係機関へ情報提供するとともに、堆肥の利用促進を図った。	b 期待どおり

事業の課題	区分	判定・説明				
	事業ニーズの変化	増加	横ばい	減少	判定の説明	・消費者ニーズが多様化する中で、実需者の提案に基づく生産体制の整備が販売力の向上につながり、地域の畜産を活性化すると考えられる。 ・高齢化等により経営を中止し遊休化した施設の有効活用を図る上で、収集した情報が活かされている。
	県の関与を見直す余地	余地なし	当面余地なし	余地あり		
	事業改善(有効性・効率性)の余地	余地なし	当面余地なし	余地あり		

総合分析等	総合分析(今後の課題、取組方針等)	・畜産物の価格が低迷する中で、実需者の提案に基づく付加価値の高い畜産物を生産する体制の整備は、本県畜産を活性化する上で重要な取組と考えており、今後も関係者が一体となって推進する必要がある。 ・遊休畜舎や堆肥生産者のリスト作成は、今後の畜産生産基盤を維持継続していく上で貴重な情報であり、その有効な活用を関係者と連携して推進する。
	特記事項	